

体育科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

○様々な動きのできる場や課題に合った練習の場や設定し、学習のめあてを明確にした授業を行うことで、運動に対する学習意欲が高まった。

(2) 課題

○運動が得意な児童と苦手な児童の体力差が大きい。

○自分たちで動きやルールを工夫して運動をしたり、こつや作戦を意識したりするなど、思考をはたらかせて運動している児童が少ない。

体育の時間以外にも取り組めるような投げる運動や、持久力を高める運動を体育の時間に紹介し行っていく。

2 観点ごとの実態

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識・技能	・運動遊びを楽しんで行う児童が多い。 ・力いっぱい走ることができる児童が少ない。	・ボールや固定遊具、縄跳びを使う遊びは、技能の差が大きい。 ・鬼遊びなど、体全体を使う遊びが好きな児童が多い。	・鬼遊びを楽しんで行う児童が多い。 ・走る力については個人差が大きい。	・ボールを投げること、走る力において個人差が大きい。	・健康や安全についての知識はあるが、実践する児童が少ない。 ・器械運動が苦手な児童が多い。	・器械運動やボール運動の技能については個人差が大きい。
思考・判断・表現	・遊びの工夫を考えたり、それを友達に伝えたりすることは、個人差が大きい。	・友達の動きを見て、真似することができる児童が多い。 ・動きを工夫し、楽しい遊び方を友達に伝えることは、個人差がある。	・友達とアドバイスし合いながら運動ができる。 ・自分たちで動きやルールを工夫して運動をしている児童が少ない。	・ゲームのルールを工夫したり、ボール操作を工夫したりして取り組むことができる。	・チームで取り組む学習において、勝敗を受け入れたり作戦を考えたりすることに課題がある。	・練習方法や作戦を考えて運動している児童とそうでない児童の差が大きい。 ・教え合う良さを実感し始めた児童も多い。
主体的に学習に取り組む態度	・どの運動遊びも意欲的に取り組んでいる。 ・安全に気を付ける意識が低い児童も一部いる。	・友達と仲よく体を動かし、すすんで運動に取り組んでいる児童が多い。 ・苦手な運動に対して消極的になったり、勝敗を受け入れられなかったりする児童も一部いる。	・運動に対する意欲が高い。 ・勝ち負けにこだわってしまい、協力して運動ができない児童も一部いる。	・積極的に体を動かすが、約束や決まりを守る意識の高さには個人差が大きい。 ・友達に声を掛けたり、応援したりする前向きな気持ちが見られる。	・体を動かすことが好きな児童が多い。 ・苦手な分野の運動には消極的な児童が一部いる。	・体を動かすことが好きな児童とそうでない児童が分かれている。 ・運動領域によって運動意欲の差が見られる。

3 課題と授業の改善策

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	知識・技能	・ボールを投げるなど、多様な用具操作を身に付けること。 ・全力で走ること。	・用具を操作する動きを身に付けること。 ・多様な動きをつくる運動遊びを通して、様々な基本的な体の動きを身に付けること。	・運動の楽しさや達成感を感じ、走力や持久力など体力の向上を図ること。	・運動を日常化し、楽しさや達成感を感じながら体力の向上を図ること。	・楽しく運動に取り組みながら、基礎的な技能を身に付けること。	・体力を向上させ、基礎的な技能を身に付けること。
	思考・判断・表現	・友達と関わりながら運動遊びをすること。	・動きを工夫し、友達に伝えられるようにすること。	・自分の運動に対する課題を見つけ、解決に向けて取り組めるようにすること。	・自分の課題を意識し、解決に向けて取り組めるようにすること。	・ゲームの勝敗だけにこだわらず、友達と協力しながら活動に取り組むこと。	・自分やチームの課題を捉え、練習方法や作戦を考えて運動すること。
	主体的に学習に取り組む態度	・安全に気をつけて運動遊びに取り組むこと。	・勝敗を意識しすぎず、友達と力を合わせて自分のめあてを達成すること。	・勝ち負けにこだわり過ぎず、協力して運動に取り組めるようにすること。	・安全やきまりに対する意識を高めること。	・得手、不得手にかかわらず、運動の特性に応じためあてを設定し、すすんで運動できるようにすること。	・自分なりのめあてをもち、誰とでも協力して安全に運動すること。

授 業 の 改 善 策	知識・ 技能	- 鬼遊びや用具操作の時間を多く取り入れる。 - 全力で走る機会をできるだけ多くつくっていく。	- 用具操作の時間を取る。 - 運動遊びの活動から、毎時間少しずつ取り入れ、多様な動きをつくる。	走る運動や、持久力を高める基本的な運動を体育の時間に紹介し、身に付けさせる。	基本的な動きや多様な動きを経験させ、日常的に取り組める動きを提示していく。	課題別に練習の場を設定し、技能のポイントを明確にする。	- 資料や動画を用意し、基本的な技能のポイントを明確にする。 - 主運動に合わせた予備的な運動を帯で取り入れる。
	思考・ 判断・ 表現	関わる必要性のあるルールをつくったり、自分の考えを伝えたり相談したりできる場を設定する。	- 友達のよい動きを共有する時間を設定し、広めるようにする。 - 攻め方や守り方など、良い動きの例を示し、選べるようにする。	- 授業内お互いにアドバイスをしながら運動する習慣をつける。 - 学習カードを工夫し、学んだことを記録して考えさせる。	- 活動のめあてを確認し、何を意識した運動なのかを意識させる。 - 活動のめあてに対する振り返りを行いながら運動に取り組むようにする。	- チームのよさや、作戦を考えることができるような学習カードを工夫する。 - 振り返りの時間を設けて活動のめあてを意識させる。	- 自己の課題やチームの作戦について考えられるよう、学習カードやタブレットを活用する。 - グループやチームで協働的に学習に取り組めるような工夫をする。
	主体的 に学習 に取組 む態度	どういったことが安全につながるのかを理解できるよう、場の設定を工夫するとともに、毎時間声を掛ける。	- 簡単な運動遊びや称賛をするなど肯定的な働きかけをする。 - 友達と一緒に運動遊びをする楽しさに触れることができるように、用具の準備や片付け、場の設定を工夫する。	- 協力する気持ちを育てられるよう、勝ち負けのある運動を多く経験させる。 - 様々なゲームの中で、協力して運動する楽しさを味わわせる。	安全に対する意識が高まるよう、安全に取り組めている児童を称賛する。	苦手な分野であってもすすんで運動に取り組めるよう、スモールステップを設け、自身の成長を実感させる。	- 運動の日常化につなげられるよう、体育の授業や外遊びを通して仲間と共に体を動かすことの楽しさを実感させる。 - スモールステップの段階を示し、自身の成長を実感させる機会を多く設ける。